

共同テーブル
4.24
第15回シンポ

「新しい戦前にさせない」連続シンポジウム

非武装中立の リアリズム

軍隊は
国民を守らない
自衛隊南西諸島シフトは
東アジアの平和の障害

日時

4月24日(木)

午後3時～5時30分 (開場は午後2時30分)

会場

衆議院第1議員会館・B1・大会議室

主催

共同テーブル

申込先

多くの参加者が見込まれます。定員(300名)になり次第、申し込みを締め切りますので、大変恐縮ですが、至急、下記のメールアドレスまで、出席申込(氏名・電話番号・お住まいの都県名、記入)をお願いいたします。

E-mail : e43k12y@yahoo.co.jp

平和をつくる積極策は非武装中立です。

自公政権下の軍国主義路線(集团的自衛権、安保3文書、軍事費増強)は戦争を挑発し、いざとなれば住民を犠牲にします。自衛隊南西諸島シフトは東アジアの平和の障害です。軍隊は国民を守りません。むしろ世界中の軍隊は国民を殺してきました。

個人レベルの非暴力と市民的不服従。自治体レベルのピースゾーン/平和都市宣言や無防備地域宣言。国家レベルの9条擁護(憲法改悪反対)。地域レベルの東アジアの連帯と平和運動。国際レベルでは国連平和への権利宣言、核兵器禁止条約をはじめとする平和構築が重要です。

憲法前文の国際協調主義と平和的生存権、憲法9条の戦争放棄と軍隊不保持の思想を再活性化し、平和運動を再構築する運動として、市民的防衛と非武装中立のリアリズムを考えてみましょう。

多くの皆様の御出席を、お待ちしております。

プログラム

総合司会 杉浦ひとみ (弁護士)

主催者挨拶 佐高 信 (共同テーブル発起人)



前田 朗

(朝鮮大学校非常勤講師)



「軍国主義はお花畑

—軍隊のない国家で考える—

シンポジウムの趣旨、石橋政嗣の非武装中立論、国連平和への権利宣言 著書『軍隊のない国家』『旅する平和学』『憲法9条再入門』等

麻生多聞

(東京慈恵医科大学教授者)



「非武装中立の憲法論

—軍事によらない安全保障—

抑止力神話批判、憲法9条の歴史的倫理的解釈、軍事によらない安全保障(市民的防衛) 著書『平和主義の倫理性』『憲法9条学説の現代的展開』等

上原公子

(前国立市長)



「軍隊は国民を守らない
—無防備地域から非武装中立へ—

南西諸島における住民保護、国際人道法・ジュネーヴ条約を活用した平和運動 著書『しなやかな闘い: 生命あふれるまちづくりの試み』『国民保護計画が発動される日』等

「新しい戦前にさせない」共同テーブル・アピール

暮らし(いのちき)は武器で守れない

暮らしを大分では(いのちき)と呼ぶ。いのちを連想させる味わい深い方言である。政府は憲法9条を捨てて軍備拡大に踏み出そうとしているが、それは生命を削り、暮らしを壊す道である。暮らしと軍拡は両立しない。戦火の消えないアフガニスタンで、中村哲さんは井戸を掘り、暮らしを建て直して平和を築こうとした。憲法9条を持つ日本の中村哲さんはそれまでフリーパスでアフガンを歩くことができた。しかし、イラクへの自衛隊派遣が、その平和のパスポートを奪う。だから、哲さんは国会で「自衛隊派遣は有害無益」と訴えた。軍隊が国民を守らないことは旧満州や沖縄の例で明らかである。

軍備に頼らない平和を求めるために、私たちは「安保三文書」を徹底批判する。暮らし(いのちき)か、軍拡か。三橋敏雄という俳人は「過ちは繰り返します秋の暮」と詠んだが、私たちは愚かな軍拡の道を選ばない。

2023年春

共同テーブル発起人

浅井基文(元広島平和研究所所長・政治学者) 安積遊歩(ピアカウンセラー) 雨宮処凛(作家・活動家)
植野妙実子(中央大学教授・憲法学) 上原公子(元国立市長) 大口昭彦(弁護士・救援連絡センター運営委員)
海渡雄一(弁護士) 鎌倉孝夫(埼玉大学名誉教授) 鎌田 慧(ルポライター) 金城 実(彫刻家)
纈纈 厚(山口大名誉教授・歴史学者) 古今亭菊千代(落語家) 佐高 信(評論家) 清水雅彦(日体大教授・憲法学)
白石 孝(NPO法人官製ワーキングプア研究会理事長) 杉浦ひとみ(弁護士) 竹信三恵子(和光大名誉教授・ジャーナリスト)
田中優子(前法政大学総長) 鳥井一平(全統一労働組合・中小労組政策ネットワーク) 古田兼裕(弁護士) 前田 朗(朝鮮大学校講師) 宮子あずさ(随筆家) 室井佑月(小説家・タレント) 山城博治(沖縄平和運動センター顧問)

「共同テーブル」はこれから多彩なテーマとパネリストで、連続シンポを企画していきます
共同テーブルHPに、賛同申し込み書式があります。それに記入していただければご案内をメールでさしあげます。